

「～だの～だの」の意味

鈴木 智美

東京外国語大学留学生日本語教育センター

tmsuzuki@tufs.ac.jp

1 はじめに

ここでは、以下の例(1)～(4)に示すような、事物を並立・列挙して例示する働きをするとされる「だの」を分析の対象とする。

- (1) 新学期に入り、教科書だの定期だのを買わなければならない、何かとお金がかかる。
- (2) 小学生の息子に携帯だのパソコンだのとうるさくせがまれて困った。
- (3) まずいだのきらいだのと夫は料理に文句ばかり言っている。
- (4) 留学するだの結婚するだのと、彼女は今にも会社をやめるようなことばかり言っている。

次の例(5)は日本語学習者の自己紹介の文章である。文法的な誤りはないが、この「～だの～だの」の使い方が不自然な印象を与えている。

- (5) 私は今年の4月に日本へ来ました。日本へ来てからもう6か月たちました。学校では今日本語だの数学だのを勉強しています。勉強は毎日大変ですが、いい大学に入ることを目標にがんばっています。

進学を目指して勉強している科目を、「日本語だの数学だの」と例示せず、「日本語や数学など」とすれば、不自然さが感じられなくなる。では、なぜ「だの」を用いたことによって、例(5)の文章が意味的に不自然になるのだろうか。

2 先行研究の記述

先行研究の記述は、次のいずれかの点でこの問題に答えるのに十分ではない。

- (6) 「～だの～だの」の形が、意味記述の対象として包括的に含まれていない。
- (7) 記述が明示的ではない。

『日本語文型辞典』(グループ・ジャマシイ編著(1998:201))は、「だの」は「いくつかのものをあげる言い方」だが、「発言の内容を『いろいろ言ってるさい』と否定的にとらえて使うことも多い」(下線は引用者)としている。¹しかし、「だの」は必ずしもいつも発言の内容を示すとは限らない。したがって、この記述は、「だの」が名詞に接続し、かつ引用の助詞「と」を伴わず発言の内容を示すものではない場合の「NだのNだの{が/を/に/で/の等}」を、その記述の対象として含み込むことができない。

また、『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(白川監修(2001:59-60))は、「～だの～だの」を「否定的なニュアンスで用いられるのが普通」(下線は引用者)としている。²しかし、「否定的なニュアンス」というのがどのようなものを、より明確に記述することが必要であると思われる。

3 「だの」の意味

ここでは「～だの～だの」における「だの」の意味を、以下のようなものであると考える。

- (8) 「～だの～だの」における「だの」は、当該の事態を価値のないもの、または現実味のないものとして述べる際に、その例となる顕著な事物を並立・列挙して例示する働きをする。

このように考えると、例(5)の文章の不自然さも矛盾なく理解できる。日本語と数学を例として挙げ、勉強することを「価値のない」もの、または「現実味のない」ものとして述べるのは、この場合に適当ではないからである。

¹ 否定的にとらえているものとして挙げられている例文は、「彼は、やれ給料が安いだの休みが少ないだのと文句が多い」「彼はいつ会っても会社をやめて留学するだのなんだのと実現不可能なことばかり言っている」(グループ・ジャマシイ編著(1998:201) いずれも下線は引用者)である。「...だのなんだの」については「慣用的な表現」としている。

² 挙げられている例文は「郵便受けはチラシだのダイレクトメールだのでいっぱいだった」「少年たちは被害者から恐喝した金をゲームだのパチンコだのに使っていたようだ」「勉強しろだの塾へ行けだのと親にしつこく言われて気が滅入った」(白川監修(2001:59-60))である。

4 検証

4.1 価値のないもの

当該の事態を価値のないものとして述べる際に、例となる顕著な事物を並立・列挙して例示していると考えられる場合には、以下のようなものがある。

- (9) 成果主義だの査定だのをうるさく言えば、社員は上司の顔色ばかり見て仕事をするようになる。(成果主義を押しつけても意味がない。)
- (10) 授業以外にも会議だの委員会だのがやたらに多い。(授業以外にそのような仕事が多いのが、いいこととは思えない。)
- (11) グッチだのプラダだのを買いあさるだけの海外旅行で満足している人もいる(ブランド品を買いあさる海外旅行など価値はない。)
- (12) 元祖だの本家だの、観光地の土産物屋はどこもうちが本物だと主張する。(そのような本家争いなど意味がない。)
- (13) まずいだのきらいだのと夫は料理に文句ばかり言っている。(文句ばかり言っているが、単なるわがままだ。)
- (14) 専門性をきっちり身に付けさせるだの、人の痛みを理解する心を育てるだの、医者や法律の専門家を教育するには、何を今さらという文言が並んでいる。(当たり前過ぎてわざわざ言うことではない。)

4.2 現実味のないもの

当該の事態を現実味のないものとして述べる際に、例となる顕著な事物を並立・列挙して例示していると考えられる場合には、以下のようなものがある。

- (15) ビジネス雑誌には、IT だのコピキタスだの流行りの言葉が氾濫している。(氾濫しているのは現実味のない言葉ばかりだ。)
- (16) トリュフだのキャビアだの、あのレストランは高級食材ばかり使っている。(普通の料理ではあまり使わない食材ばかりだ。)
- (17) 小学生の息子に携帯だのパソコンだのとうるさくせがまれて困った。(小学生に買ってやるにはそんなものはまだ早いのではないか。)
- (18) 宇宙物理学だの遺伝子工学だのの実験には、とにかく資金が必要なのだ。(日常生活とはかけ離れたような専門だが。)

- (19) つらいだの大変だのと言われても、門外漢の私にはわからない。(現実味がわからない。)
- (20) 飲むと必ず、機動隊とぶつかっただの、留置場に入れられただの、若き日の自慢話になる。(もはや遠い過去の現実味のない話だ。)

4.3 価値もなく、また現実味もないもの

当該の事態を価値もなく、また現実味もないものとして述べるような複合的な場合も考えられる。

- (21) 対数関数だの四次方程式だの、高校の数学で習ったことが、今全然実生活に役立っていない。(現実には使わず、役に立たなかった。)
- (22) ノーベル賞をとったとたん、国民栄誉賞だの名誉市民だの、数々の賞の授与式に引っ張り出される。(ノーベル賞に比べればどうでもいいような賞だし、それまではまったく無縁のものだったのに。)
- (23) テロだの戦争だのと殺伐としたニュースが多い。(尋常の事態ではなく、かつ愚かなことだ。)
- (24) 法人化だの民営化だの、いろいろやっているが改革はいっこうに進まない。(何かよくわからないことをやっている。意味があるのか。)
- (25) 眺めがすばらしいだのづくりがゴージャスだのという宣伝文句で、都心の高級マンションが飛ぶように売れているらしい。(庶民にとってはどうでもいい、現実味のない宣伝文句だが。)
- (26) 留学するだの結婚するだのと、彼女は今にも会社をやめるようなことばかり言っている。(言うのは口だけで、本当にするとは思えない。)

5 今後の課題

「～とか～とか」および「～やら～やら」との比較を行い、この「～だの～だの」の意味の記述をより精密化することを今後の課題としたい。

引用文献

グループ・ジャマシイ編著(1998) 『日本語文型辞典』 くらしお出版

白川博之監修(2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク